

# ベントグリーン内に発生する雑草対策について

平成28年8月2日  
名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)  
堀田信吾

3年前から初夏から数ホールのグリーン内に夏雑草(メヒシバ)が増えており、手取りでは追いつかなくなり問題となってきた。

## 対策1

2年前までは除草剤(エコパート)のスポット散布と手取り除草を実施していた。  
問題

発生後の接触型除草剤であり、探しながらの散布で手間もかかり、発生密度が少ないところであれば最小限のグリーンの葉害で済むが、発生密度が多いと散布面積増加によるグリーンの褐色部が増え、一時的に美観を損なう。草が大きくなってから手取りを実施すると、グリーンの表面を荒らしてしまう。

## 対策2

### 2015年から除草剤(アビシエム)の散布テスト

登録情報

使用場所:西洋芝(ベントグラス)

使用時期:1回目5月中旬~下旬、2回目40日後

使用量:1~2cc/m<sup>2</sup> 希釈水量:100~200cc/m<sup>2</sup>

総使用回数:3回まで

特徴:発生前処理



手取り除草作業状況

## 雑草発生後の処理結果

エコパート (0.4cc/m<sup>2</sup>)

11番グリーン

アビシエム (2cc/m<sup>2</sup>)

ナーセリー (ベント)

場所1:グリーン6番ホール

散布時期:4月下旬

散布量:200倍×200cc/m<sup>2</sup>(1cc/m<sup>2</sup>)全面散布

結果:登録上は40日後に2回目を散布する必要があるのだが、新薬ということもあり、中止した。4月下旬から発生していたメヒシバには、効果が低かった。

場所2:ナーセリー(ベント)

散布時期①:5月下旬

散布量:1,000倍×10/m<sup>2</sup>(1cc/m<sup>2</sup>)スポット散布

結果:発生後の散布となったが、ベント芝には葉害は無く、雑草(メヒシバ)には効果があった。

散布時期②:6月下旬、7月下旬

散布量:500倍×10/m<sup>2</sup>(2cc/m<sup>2</sup>)スポット散布

結果:前回の濃度の倍であり、発生後の散布となったが、ベント芝には葉害は無く、雑草(メヒシバ)には効果があった。

### 2016年の除草剤(アビシエム)の散布テスト

グリーン6番、11番ホール アプローチ全ホール(グリーンエッジから2m幅)

散布時期:1回目4月中旬、2回目、5月下旬(合計2回)

散布量:1,000倍×10/m<sup>2</sup>(1cc/m<sup>2</sup>)による全面散布

結果:5月になっても雑草(メヒシバ)発生率0%となり、グリーンの葉害なのか4月下旬にコロニー状に枯れを2つ確認。5月中旬には改善し、5月下旬以降は葉害もなく7月15日現在まで問題なし(散布したホールのみ発生した)

7月22日、8番グリーンの雑草発生密度が増えたため、全面散布した(1.6cc/m<sup>2</sup>)  
ナーセリー(ベント)

散布時期:1回目4月下旬、2回目、5月下旬(合計2回)

散布量:500倍×10/m<sup>2</sup>(2cc/m<sup>2</sup>)殺虫剤・殺菌剤と混合散布

結果:雑草(メヒシバ)発生率0%となり、ベント芝の葉害もなく

7月15日現在まで問題なし

考察:

①散布水量は多いほうが効果がある(推奨散布回数は3回であるが、今回は2回で良い結果となった)。

②殺菌剤や殺虫剤と混用しても問題なし。

③コロニー状の葉害らしきものが4月下旬に少しあったが、2週間後に回復した。

④全面散布したグリーンは雑草(メヒシバ)が全くないが、散布しなかったホールでは所々発生しており目立っているため、次年度から安全性が高いことが確認出来たので、その他の発生ホール散布を検討する。

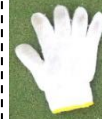
⑤全面散布処理をしなかったグリーンには、ジョウロ及びハンドスプレーで発生している雑草(メヒシバ)にスポット散布を実施したが、中旬になってもグリーンの葉害は発生しなかった。

発生前に処置しないと、雑草の枯れ上がりが目立ってしまうことと、発生前処理をしたほうが作業の省力化を図れる。

その他

グリーン内に発生するスズメノカタビラに有効な除草剤(ポアキュア乳剤)が今年の秋以降に発売されるという情報を知ったので、今回のメヒシバ対策のようにテスト散布をしていきたいと思っております。

## 感受性の高い芝への葉害



11番グリーン 4月下旬